



都跡公民館だより  
12月号

発行：(公財) 奈良市生涯学習財団  
都跡公民館  
〒630-8032 奈良市五条町 204-1  
TEL / FAX : 0742(34)5954  
https://manabunara.jp/  
miato@manabunara.jp

\*\*\*\*\*

先日、主催講座で男性限定の「茶の湯を楽しむ」講座を開催しました。講座のなかで、「正座して足が痛ければ、崩しても良いですよ」と何度か参加者に声をかけられていました。茶道講座なので、絶対に正座で所作を学ぶものだと思っていたので、思わぬ声掛けに驚きました。その日の講座終了後に先生達にその話をすると、「先人たちが編み出した所作や心を学ぶことは大切だけど、敷居が高くなってたしなむ人が減って廃れていってしまっはもったいない。足を崩しての茶道やテーブルと椅子で茶道を楽しむなど、時代に合わせた楽しみ方を体験してもらいたい」とのことでした。

私も公民館職員となって約 20 年。知らず知らずのうちに過去の成功経験や固定観念に囚われて、時代の流れや地域のニーズに合わないことをしていたかもしれないと我が身を振り返るとともに、もうすぐ来る新しい年は心新たに臨もうと思いました。

今年一年、都跡地域の皆さまにはお世話になりました。新しい年もどうぞよろしくお願いたします。

\*\*\*\*\*

申込不要

# 都跡で望む山焼き



令和7年 1月25日(土) 9時~19時45分

## 自主グループ体験と若草山焼き行事の鑑賞会

若草山が一望できる、都跡公民館ならではのイベントです！

若草山焼きの日は都跡公民館へ **Let's go!**



### 自主グループ活動体験

- ① 9時15分~10時15分  
己書(己書嬉笑会)  
ヨガ(ルーシーダットンヨガ)
- ② 11時15分~12時15分  
レクリエーションポッチャ  
(みんなでポッチャ)
- ③ 13時30分~14時30分  
詩吟(悠遊吟詩会都跡)  
大正琴(大正琴同好会)
- ④ 13時、14時、15時、16時  
お茶席体験(飲茶会)  
※お茶菓子代500円  
※9時から整理券を配布。  
各回6席、なくなり次第終了。

### ふれあいコンサート

15時30分から17時45分 \*開場は15時予定

- ① 大正琴(大正琴同好会)
- ② オカリナ(みあと♪オカリナ隊)
- ③ 短琴(和楽アンサンブル)
- ④ 英語コーラス(都跡基礎英会話)
- ⑤ 日本舞踊(こうさぎの会)
- ⑥ 民謡太鼓(三笠会)
- ⑦ コーラス(ポプラの会)



### 手づくり こんにやく販売

9時から販売開始  
200円(100個限り)

### 山焼き行事の鑑賞会

18時から19時頃

- ・都跡公民館設立のお話ほか
- ・若草山焼き行事を眺める

※当日、開始2時間前に奈良市に気象警報が発令されている場合は中止。また雨天等で山焼きが中止・順延になった場合は、鑑賞会のみ中止。

## ◆ズームアップ現代◆

地域のつながりが希薄化してきている昨今、地域交流の場が形成されている方々からお話を聞いてみよう、ということで企画されたこの講座。自治会や子ども会などの地域各種団体が連携して、毎月交代でそれぞれのオリジナルカレーを住民に提供する取り組みについて紹介していただきました。お話を聞いたあと、都跡公民館でも地域交流の場をつくっていくうえで、どのような場にしていったら良いかについて意見交換会をおこないました。「音楽を聴いたり歌ったりしたい」や「お茶とお菓子でおしゃべりしたい」といった意見が出されました。

## ◆de 愛♪みあとサロン◆

6月開催の「子ども食堂と地域サロン」や8月開催の「ズームアップ現代」といった講座を経て、9月より都跡公民館版の地域交流の場をスタートしました！

昭和の歌謡曲をみんなで歌ったり、ちょっとイイお菓子を食べながらお茶したりできる空間を毎月一回催しています。

詳しくは、公民館までお問い合わせください！



### ふなむし「都跡」の宝

『河邊隆光』ってご存知ですか？

〜東大寺の大仏・大仏殿の元祿復興〜

これまでのあらすじ

『ふるさと「都跡」を語ろう会』の溝邊さんが、都跡地域出身の元祿時代の僧・河邊隆光が將軍綱吉を「犬公方」に仕立てた人物であったとか、東大寺大仏殿再建にあたって、諸大名に多額の寄付金を命じさせたなどの悪評が後世に伝わっていることに心を痛め、彼の汚名を少しでも雪ぎたいとの思いからはじまった『ふるさと「都跡」の宝〜河邊隆光編〜』も残すところあと一話となりました。しかし、最後の記事を掲載してから少し時間が経っているので、これまでの記事を簡単にまとめてみました。それでは、さっそく振り返ってみましょう。

河邊隆光は一六四九年二月八日に誕生し、幼少から才能に優れた人で、十歳で唐招提寺に弟子入りしたのを皮切りに、長谷寺や高野山、法隆寺、醍醐寺などで研鑽を積み、江戸にまでその名の聞こえる人となりました。その後、一六八五年、三十六歳で江戸に招かれ、一六九六年には、お坊さんの最高位である大僧正に任じられ、さらに五代將軍綱吉の側近に加えられました。以降、將軍綱吉が没するまでの十数年にわたって、仏教界の最高位として幕政に関わることになりました。

そんな隆光の業績として、一五六七年、松永・三好の兵火で焼け落ちていた大仏殿の復興に尽力したことがあげられます。

元祿時代、東大寺や奈良の町の人々からの要望や期待により、大仏殿復興の熱意が高まります。しかし、大仏殿再建には膨大な費用がかかり、その費用を工面する為、隆光は東大寺の僧侶で復興の責任者である公慶上人を江戸に呼び、將軍綱吉・生母桂昌院に引き合わせたのです。そして桂昌院から五百両の資金の面倒を見てもらうことになりました。

また、材木の調達も困難を極めました。この当時でも、すでに巨木はほとんどなく、公慶上人一人の力だけでは全国的に働きかけて探すことは大変なことでした。ここで助け舟を出したのも隆光です。隆光が、大仏殿の再建を幕府の直轄事業となるように將軍に働きかけをしたことで、諸大名たちの協力を得ることができるようになりました。そして、その後一五〇年ぶりに大仏殿は完成。一七〇九年に落慶供養がおこなわれました。

大仏殿の棟札には、復興に携わった人々の名前とともに十三行にわたり大仏の発願から今回の復興までの経緯が記されています。そして、最後の行には、棟札を書き文章を作った人物「真言新義僧祿前大僧正隆光誌」の名が記されています。このことから、大仏の復興には、都跡人である隆光の力が大きく関わっていたことがわかります。

次号、いよいよ最終回です！